

春告草

第161号 令和元年11月20日 進路指導部発行

もうすぐ出願

合格までのスケジュール

11月も半ばを過ぎ、来月は12月、師走である。師走の由来は、年の瀬に経をあげるために東奔西走する師匠の僧の姿というのが一般的なようだが、諸説あるらしい。普段は落ち着いている教師もこの時期は、あわただしく走り回るといふ説をネットで見つけたが、周りを眺めると、どの先生方も忙しくしていて、年中「師走」状態だ。6年生も受験本番が近づき、追い込みで忙しいことだろう。ただしこれからは先を見通して諸手続きを進めていかなければいけない。これから入試本番までの過ごし方などについて、特に手続き面を中心に説明しておきます。5年生、4年生も来年、再来年には同じ状況を迎えるから、予習のつもりで読んでおこう。

合格までのスケジュール 1回目 願書入手から出願まで

■受験計画を立てる 何校受ける？日程は？無理のない受験スケジュールを立てる

まず、受験プラン。この時期、第1志望校は大部分の人が決まっていると思うが、併願はするか、する場合は何校か、スケジュールは無理なく組めるか、得意科目を活かせる方式はあるかなど、年内に考えて必要な準備をしておきたい。

第1志望が国公立大の場合、1月18、19日のセンター試験が大きなポイントとなる。試験終了後に発表される正解を見て自己採点をし、その結果により出願校を決める。思うように得点できていた場合は考えていた志望校にそのまま出願すればOKだが、得点が予想より低かった場合は出願校の変更を検討しなくてはならない場合もある。2段階選抜を予告している大学・学部を志望する場合、倍率が高くなったときは個別試験に進めない可能性もあるので、慎重な見極めが必要だ。国公立大の出願期間は1月27日～2月5日。ここで迷わないように、センター試験の得点が予想通りだった場合や予想より低かった場合など複数の事態をシミュレーションしておこう。

私立大専願の受験生の多くは、センター試験利用入試にも出願するだろう。難関大を中心に事前出願（センター試験前に出願を締め切る）のところも多いので、その場合は自分の得点を見てから出願することはできない。事後出願のところもけっこうあるが、募集人員が少ない、倍率が高くなるなどのケースもある。また、当然ながら出願校数が増えれば受験料も増えていくので、十分に検討して出願しよう。

受験スケジュールを組む際には、試験日が何日も連続するのは避けよう。「模擬」ではない「本番」の試験はかなりのエネルギーを使うもの。受験した後の復習でも現役生は力を伸ばしていけるので、どうしても仕方がない場合は別として試験間隔は1～2日

令和2年度大学入試・受験スケジュール

12月	～15日 ～16日 中旬	募集要項発表 センター試験受験票等受領 出願校リスト、調査書発行記録簿 提出締切り(校内) ※募集要項・願書入手(各自)	私立大一般入試の合格発表・入学手続き ↓ 私立大一般入試(二月入試) ↓ 同(三月入試)
1月	8日 18日 19日 20日 22日 24日 25、26日 27日～	私立大一般入試願書受付開始 始業式(調査書受領) センター試験1日目 センター試験2日目 データリサーチ(自己採点・校内) センター試験平均点等中間発表 データリサーチ結果返却 センター試験追・再試験 国公立大出願受付(～2/5)	
2月	6日 ～12日 ～20日 25日～ ～28日	センター試験平均点等最終発表 国公立大(前期)第1段階選抜結果発表 公立大(中期)第1段階選抜結果発表 国公立大前期試験 国公立大(後期)第1段階選抜結果発表	
3月	8日～ 7日 12日～	公立大中期試験 卒業式 国公立大後期試験	

空けるのが理想である。私立大はセンター利用入試、全学部入試、個別入試など複数の受験機会があるので、組み合わせて上手に受験しよう。また、合格発表日、入学手続き日にも注意する。第一志望校の合格発表の前に併願校の入学手続きが締め切られる場合、併願校に入学金などの学費を納入しなければいけないケースもおこり得る。

■募集要項（願書）を手に入れる

各大学とも12月15日までは募集要項（願書）を発表・配付・販売する。このところ、出願方法を紙の願書（郵送または窓口受付）からインターネットに切り替える大学が急増している。いわゆるネット出願だ。大学によってネットのみ（紙の願書は廃止）、ネットと紙の併用（どちらでも可）の場合があるが、私立大は志願者が比較的多い大学を中心に、大部分がネット出願に移行した。国公立大も、2020年入試で新たに24大学がネット出願を導入し、全体の59%と半数以上が導入することになる。

募集要項の入手方法には、主に以下のような方法がある。

方法1 大学ホームページからダウンロードする

募集要項の冊子が用意されていない場合は、大学ホームページから募集要項をダウンロードしプリントする。スマホの小さい画面だけでは見落としもあるだろうから、必ず紙で確認しよう。

方法2 テレメール、インターネットで申し込む

各大学のホームページやテレメールなどから申し込むことができる。申し込み後、2～3日後に募集要項などが届く。募集要項代金（私立大）や手数料は、その後振込用紙で支払う仕組みだ。

方法3 大学に電話、FAXで申し込む

各大学の入試課（入試センターなど名称が異なる場合もある）に電話またはFAXして直接依頼する。平日だけ、あるいは受付時間が決まっているなど、大学によって対応が異なるので注意する。

方法4 大学に直接郵送で請求する

大学から直接郵送してもらう場合は、切手を貼った返信用封筒（大学指定の大きさ）を同封して申し込む。返信用封筒に貼る切手の料金は、請求する要項や速達の有無によって異なるので確認すること。

方法5 大学で直接受け取る

大学に直接出向いて入手することもできる。家から遠くない大学の場合は、試験場の下見にもなる。ただし、土日、祝日、大学休業日や平日の取扱い時間外などは受け付けてくれないので、確認してから出かけよう。

方法6 書店で購入する

募集要項を販売している大型書店では購入も可能であるが、全大学そろっているわけではない。

● いずれの方法にしても、年明けに要項を入手しようとすると意外に時間がかかったり品切れになっていたりする場合もある。余裕をもった出願をする為にも、年内には要項を入手しておくことだ。特に国公立大については、センター試験自己採点の結果により、出願先を変更する可能性のある大学は事前に取り寄せておこう。

■出願手続き 急速に広がるネット出願 うっかりミスに注意

入試出願で肝心なのは、入学願書、調査書、入学検定料（受験料）に関わることだ。ポイントをあげておく。

1 入学願書

募集要項にある記入例をよく見て、指定された筆記用具ではっきり分かるよう丁寧に書く。ペン書きの場合は一度下書きするのもいい。私立大は1枚の願書で、複数の入試方式や学部に出願できるところも多いので、志望学部や方式を間違えずに書く。

念のために注意しておくが、大学受験である。保護者に代筆を頼むのではなく、自分で記入する。

2 インターネット出願

大学のホームページの専用画面で出願手続きを行う「ネット出願」を取り入れた大学が増えた。一般入試では、私立大の大半が実施し、国公立大でも半数以上が導入している。

入力内容の確認画面があり、未入力や誤りがあれば再入力を促してくれるが慎重に手続きする。複数の方式や学部・学科を併願する場合などは検定料の割引なども自動的に計算してくれるが、各項目について確認しながら手続きを進めよう。

3 調査書

複数学部に出願した場合も含めて願書1枚につき1通の調査書が必要となる。出願後に他学部や他学科を受験することになった場合は、さらにもう1通必要になる大学と不要という大学に分かれるので募集要項で確認しておく。

4 入学検定料（受験料）

銀行をはじめとした金融機関からの振り込みが一般的だが、郵便振替やコンビニで支払える大学も増えた。大学指定の振込依頼書を銀行の窓口などに持参して納めよう。その際、必ず収入印が押されているかを確認すること。収納証明書は出願書類に同封して郵送する。

5 出願書類の提出

入学検定料の振込が済んだら、次は出願書類を提出する。紙の願書による出願では「書留・速達による郵送」のみに限る大学がほとんどだ。

ネット出願でも多くの場合は、最終的に調査書や、画面上で登録した出願票のプリントアウト、受験料の支払い証明書、受験写真などを郵送しなければならない。ネットで出願が終わったと勘違いして、出願書類の郵送を忘れるケースがあるという。十分に注意しよう。なお、紙の願書による出願とネット出願で、締切日を分けている大学もあるので要注意だ。

●第1回目は以上で終了。第2回目はセンター試験受験票の確認から合格発表後の学費納入と入学手続きまでを掲載する予定。

ネット出願の流れ

ネット出願のやり方は大学によって異なる場合もあるが、一般的には次のような手順となる。

- ①大学のホームページにアクセスし、ネット出願の画面を開く
- ②出願する入試方式・区分、学部・学科などを選択する。
- ③出願者の情報(住所・氏名、性別、生年月日など)を選択・入力する

※郵便番号を入力した後「住所を自動入力」を選択すると「〇〇市△△町」まで表示されるが、その後の「番地」や「マンション部屋番号など」が未入力のままになっているケースが多いそうだ。住所は最後まで正確に入力しよう。

- ④入学検定料(受験料)の支払い方法を選択する

※受験料の支払い期限は「ネット入力をした翌日の23時59分まで」などと決められている大学もある。支払い期限を過ぎてしまうと、登録した出願データが消去されてしまうので、登録して安心！ではなく、支払いも早めに済ませよう。

- ⑤出願書類(調査書・写真)を郵送

※web上で手続きを完了したあとで、調査書や写真を送付しなければいけない。また大学によっては、受験写真の送付ではなく写真データをアップロードする大学もある。ファイル形式はJPEGが一般的だ。最近の傾向として、受験写真を入学後の学生証写真に利用する大学も多い。高校の制服での撮影不可という大学もあるので注意しよう。

web 受付開始は年明けですが、名前、住所などを事前登録させる大学もあります。ホームページで確認しておきましょう。



新テスト information

共通テスト「英語」は「読む、聞く」テストを実施

2021年度大学入試からの導入が予定されていた「大学入試英語成績提供システム」の延期が決まった。その後の動向が気になっていた共通テスト「英語」であるが、大学入試センターより、問題作成の方針に変更はないと発表された。

現行の「センター英語」では、語句の整序問題や、発音・アクセント問題で「書く、話す」力を間接的に測定しているが、英語の外部資格・検定試験のスコアの利用で上記2技能の力は測定できる

として、新テスト「英語」の筆記試験は「読解に特化」した出題にモデルチェンジすると説明されていた。今回の英語成績提供システム導入延期で、(少なくとも導入延期が決まった5年間は)「センター英語」スタイルに戻るのではないかと見ていたが、従来どおりとなった。4年生が受験する2022年度入試に関しては、来年6月にあらためて発表がある。

配点も方針どおりリーディング100点、リスニング100点と変更はないが、得点の扱いは各大学の裁量に任されていて、かならずしも「1:1」ではないから、そう神経質にならなくても良いだろう。

ただし、国語記述式問題の扱いなどや、21年度入試から個別試験で英語の試験を廃止すると発表していた東京都立大(20年4月大学名変更)などの今後の動向もある。大学入試センターや各大学の発表には今後も注目していかなければいけない。

大学入学共通テストにおける英語テストのポイント

英語4技能「読む、聞く、書く、話す」を測る英語民間試験の活用は延期

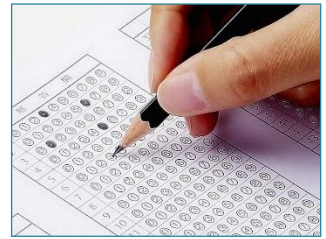
大学入試センター作成のテストは、リーディング(読む)とリスニング(聞く)で、配点は100点ずつの200点満点

「書く、話す」の2技能は、各大学が個別試験で測るなど工夫

大学入試センター試験で出題された語句の並び替えや発音問題は廃止

マーク試験にご用心！

大学3年の時にプログラミングの授業があった。今や、本校でも生徒にタブレットパソコンが一人一台ずつ貸与される時代であるが、何しろ40年以上も前の話。IBM370というマシンだったが、我々数学科の学生が端末を自由に使える資格はなく、生協の売店で売っていたマークカードにプログラムの1行1行をマークしてコーディングしていた。プログラムにミスがあれば、そのマークを消して塗り直すという、IBMの最新マシンの処理速度からすれば、気の遠くなるような超アナログ作業を強いられた。その時に、プログラムエラーではね返されたカードのマークをチェックしても、プリンターで打ち出されたミスが発見できない時があった。しかし、よくよく調べてみると、消し方が不十分だったことや、カードに残った消しゴムのカスが原因であることが多かった。今は機械の読み取り精度も上がり、以前に比べれば読み取りエラーは少ないはずであるが、精度が上がったが故のエラーも起こるだろう。つまらないミスで自分の解答が「誤答」と判定されないためにも、マーク試験こそ細心の注意を払って受験したいものだ。



●消しミスや思い込みでのマークミスを無くす

以前、センター受験を控えた6年生を対象にセンター試験演習を行ったことがあったが、消しミスによる誤答、マーク漏れが目立った。提出された全シートの数%にマークミスが見られたので、十分に注意して練習しよう。受験番号欄に番号は記入したがマークをし忘れたというケースや空欄にすべきところを思い込みで「0」で埋めてしまったという事例もあった。

これまでも「マーク模試」は行ってきて、そういったミスを自分はいしていないと思いがちだが、インターネットで次のような衝撃証言を発見した。



自己採点では高得点。しかし、解答科目のマークもれで0点に。本人は気付いていないが…

「模試屋をしています。

模試では、受験直前期でも5%程度の読めないマークシートが発生します。よほど先生の指導の良い高校実施の模試でも1%程度は読めません。マークミスや消しゴムのカスの場合も多いのですが、マークシートの塗り方そのものが原因の場合も結構あります。

でも、きちんと採点されて返ってきますよね。なぜだか分かります？ 模試は採点して成績を返すところまでが商売なので、気づいたら必ず修正をするからです。マークシートの塗り直しは日常茶飯事です。

『模試で大丈夫だったから、入試でも大丈夫』という勘違いはしないでください。」

マークミスで誤答と判定された場合、さらに厄介なのは本人が誤答と認識していないこと。自己採点が正確にできないので、国公立大学出願で判断を誤ることにともつながりかねません。くれぐれも慎重に…！

●マークは鉛筆に限る！

模試屋さんはマーク試験でのシャープペン使用についても次のような警鐘を鳴らしています。

「シャープペンシルと鉛筆の芯の成分が全く同じだと勘違いをしている人は多いです。シャープペンシルの芯も本来は鉛筆の芯と同じ黒鉛ですが、シャープペンの芯の商品パッケージに表示されているように、折れにくく、そして濃く書くために、黒鉛以外の成分も多く入っています。この為、同じ濃さに塗ったつもりでも、黒鉛自身の濃さはものすごく薄い、という商品があります。HBのつもりが、黒鉛の濃さでは4Hくらいしかないということもあります。芯を折れにくくするための成分も入っています。

そして、読取機の多くは、この黒鉛の反射する光を読み取っています。けっして『黒い色』を読んでいるのではないのです。」

どうですか？もう、シャープペンシルでも大丈夫という気にはなれませんよね。細い芯を折れにくくする為の硬化剤は紙の表面を削っているようなものです。反射する光を読み取るという原理からいえば、表面はフラットな方が良く決まっていますよね。マーク試験でシャープペンの使用は厳禁です。

(春告草第46号、84号掲載記事を再掲した)